



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

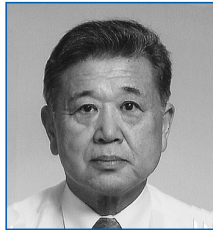
〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

— 大師範 (16名) —

- 絃 川上博文 (本部道場)
- 唄 清山満智子 (本部道場)
- 唄 佐伯葉子 (本部道場)
- 絃 神田実 (出雲)
- 唄 岡本タカ子 (石見)
- 絃 植松美代子 (大田)
- 鼓 富田英好 (加茂)
- 唄 松尾茂 (神門)
- 唄 小林重子 (湖陵)
- 鼓 勝部哲郎 (大東)
- 鼓 出雲勝之助 (大東)
- 唄 杉原麗子 (平田)
- 唄 高野百合子 (益田)
- 踊 坂本君義 (松江)
- 絃 榎野暉夫 (境港東)
- 絃 羽尻正雄 (鳥取中)

(代議員会資料名簿順)

— 准名人 (7名) —



佐藤孝昭
鼓の部 (加茂)



福田辰雄
唄の部 (邑智)



一字川 勤
鼓の部 (本部道場)



渡部孝夫
絃の部 (本部道場)



安達裕治
絃の部 (智頭)



矢倉紀子
唄の部 (尾高)



原 淳文
絃の部 (北陽)

上位昇格者

十一月十八日に開催された安来節保存会代議員会を経て、平成二十二年度の上位昇格者と表彰者が決定致しました。
今回、准名人に七名、大師範に十六名の方が昇格されました。おめでとうございます。
来年の一月十日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

会員表彰者

(四十一名)

- 中井博子 (本部道場)
- 入江訓子 (本部道場)
- 園山良一 (出雲)
- 甲村方子 (石見)
- 松村富士枝 (大田)
- 石河百合子 (加茂)
- 藤原百合子 (湖陵)
- 今岡トシ子 (大田)
- 今岡貞子 (大田)
- 今岡貞子 (大田)
- 木京梅子 (那賀)
- 前原国茂 (那賀)
- 中山恭子 (大田)
- 深田英治 (仁多)
- 佐々木千恵子 (浜田)
- 沖田冷子 (浜田中央)
- 井上 茂 (斐川)
- 三島章二 (平田)
- 河野益子 (益田)
- 今村文子 (松江)
- 加納としえ (松江)
- 山根松義 (瑞穂)
- 金村富美子 (三階)
- 矢本好市 (尾高)
- 錦織国子 (境港東)
- 松本博子 (境港東)
- 巻島徳吉 (津ノ井)
- 山本照子 (東伯)
- 平田えみ子 (東伯)
- 小谷いく子 (鳥取)
- 小川健次 (米子)
- 三内幹子 (米子中)
- 曾我真子 (江島巖)
- 船越忠夫 (江島西)
- 井手淑恵子 (江島西)
- 森田秀子 (江島東)
- 伊藤 栄 (江島東)
- 井東温子 (広島南)
- 長部啓二 (鯉城)
- 二神 正 (伊予道後)
- 佐々木ツ子 (松江)
- 齊藤和子 (東京)

(代議員会資料名簿順)

新役員決定

任期 平成 21 年 10 月 1 日 ~ 平成 23 年 9 月 30 日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

会 長

近藤 宏樹 (市長)

副 会 長

渡部 和志 (副市長)

専務理事

梅 林 守 (市議会議員)

常務理事

成相 二郎 (市産業振興部部長)

理 事

青砥 治朗 (商工会議所)

四代目

渡部 お糸 (家元)

上 廻 芳 和

中村 健二 (市議会議員)

西 村 利 美

富田 幸男 (本部ブロック)

中 井 亨

中井 亨 (米子ブロック)

松 浦 保 潔

松浦 保潔 (出雲ブロック)

大 石 義 富

大石 義富 (益田ブロック)

三 賀 森 忍

三賀 森忍 (浜田ブロック)

古 本 充

古本 充 (鳥取ブロック)

高 次 春 雄

高次 春雄 (広島ブロック)

福 田 辰 雄

福田 辰雄 (石見ブロック)

野 坂 亮 若

野坂 亮若 (岡山ブロック)

監 事

山根 弘重

資 格 審 査 員

仲前 順吉

三 代 目

安部 吉治

四 代 目

渡部 安吉

二 代 目

上代 安吉

原 代 文 夫

原代 文夫

渡 部 音 吉

渡部 音吉

上 代 文 夫

上代 文夫

渡 部 安 吉

渡部 安吉

仲 前 順 吉

仲前 順吉

安 部 吉 治

安部 吉治

渡 部 安 吉

渡部 安吉

上 代 文 夫

上代 文夫

原 代 文 夫

原代 文夫

渡 部 音 吉

渡部 音吉

上 代 文 夫

上代 文夫

大小鼓製造卸販売



杉本鼓店

住 所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。
修理、下取りもご相談ください。

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

寸鉄人を活殺する

—ジャーナリスト 並河健蔵

今から凡そ千三〇〇年前の奈良時代に、撰進された風土記の内、現存する唯一の完本である『出雲国風土記』に毘売崎の伝承が記されている。安来の郷の語臣猪麻呂の愛娘が、海岸で遊んでいて鰐鮫に咬み殺される。猪麻呂は怒り狂い、仇討を決意して神々に祈り、矢を磨き鉾を研いで、遂にその鰐鮫を刺し殺すという壮絶な父性愛を描いた物語である。

この猪麻呂を顕彰して平成五年、安来市街の姫崎町の国道九号沿いに建立された彫像の容貌は、安来出身のジャーナリスト永井瓢齋の顔を模したものである。どのような顔立ちにするかについて、この彫像を制作した紙塑作家・青戸慧氏が、終生青戸氏を支援して止まなかった杉原寛一郎氏（元安来市長、元医療法人昌林会理事長、元安来市文化協会会長）に相談した結果、史上の人物を探し検討した結果、眉が太く精悍な壮年時代の永井瓢齋の面輪が、最もふさわしいと意見が一致したのである。平成七年三月、永井瓢齋の記念碑が、安来町の西灘の生誕の地に建立された除幕式での杉原氏の挨拶の中で、感慨ぶかく述べられたのが印象に残っている。



彫像、語臣猪麻呂の容貌。彫像、ジャーナリスト永井瓢齋の顔を模したものである。

てくるという、明治維新後の社会的体制の急激な変化がある。瓢齋はこのような境遇にあったが、幼年時代は腕白で、しばしば人の意見を付く行動が多かったという。松江中学（現松江北高校）を卒業後、早稲田大学に入ったが、安来町の出身で京都の開業医・足立健三郎氏の強い勧めと援助を受けて第三高校（現京都大学）に転じた。その間に、洋画家・藤島武二を訪ねて油絵の手ほどきを受けたこともあるという。

彼は在学中、日露戦争の勃発により浜田歩兵連隊に入隊したが、生来の達筆にまかせて出征兵の家元への便りを代筆して、満州に従軍したが、病気のため帰還して東京帝国大学に入った。大正元年（一九一二年）に三十歳の晩学生として卒業したが、出征記念の勲八等の勳章を胸に飾って卒業式に臨み、周囲の者を驚かせたという。気骨のあるエピソードの持ち主である。

瓢齋は大阪朝日新聞社に入社し、社会部記者をへて大正八年、三十歳代の若さで京都支局長に転じた。同十四年には大阪本社に戻って論説委員となり、新聞のコラム「天声人語」を担当して健筆をふるった。昭和五十四年一月二十五日付朝日新聞の「天声人語物語」で、同じく天声人語の執筆者であった荒垣秀雄氏は、当時の模様を次のように述べている。

家（安来市、和銅博物館所蔵）によると、「明治新政とともに職業自由の原則により特権をはなれ、興隆する資本主義に圧倒され…」破産に至ったと述べている。当時の社会的背景としては、廃藩置県によって松江松平藩の保護政策がなくなり、さらに近代製鉄法による安価で量産される洋鋼の輸入が増加し

「…それまでは固い政論が多かったが、瓢齋は社会万般なんでも書くレポーターの広さと、人心の機微を突いて寸鉄人を活殺する名文で、コラムに新風を吹きこんだ。『詳しくはこうべし』と短評に余情を残し、こうべしに独自の時事俳句で締めくくる絶妙の一句は、千鈞の重みで天下の読者をうならせた」と、さらに「瓢齋の登場で天声人語の声価は高まり、洛陽の紙価を高からしめた」と訳している。



絃 准名人 野坂守男

これからの安来節

新指導部の体制が発足して九年、故 足立 稔、石飛 孝、安達 友之、小泉 宣明、各指導部長と引き継ぎ来年で十年を迎えます。発足当初より部員として活動させて頂きました。支部数、会員数も多くなり、指導部員が研修会等で指導する上での安来節

で使用する用語の統一化、基本的な拍数（特に一節、甲出し十一拍、乙出し十三拍）、各部門での基本のポイント、しおりの指導要綱、指導要領を基に部員が見解を共有して温故知新の精神で各研修会を指導活動してきました。各支部への移動講習会、師範以上の研修会、特に師範研修会では、皆さんは先生です。初心に帰って頂き、初心者への基本等の指導方法を各部門で実施、資格審査が初級の人が、基本でない人が残念ながら少しおられます。師範でも初心を忘れて、基本の唄の勉強が必要な人もおられますが、指導部の指導活動の成果が出てきているように思います。

最近、唄い方を昔のように面白く唄う人が少なくなつたと聞く事があります。安来節は他民謡と比較して唄い方、拍数等にも幅を持たせてあり、上級になれば、節回し味付け、唄のそらげ持ち味を出して活かして頂くのが良いと思います。唄について、歌詞をよく理解して唄う事が大切です。特に情歌は心を唄う、各部門とも勢いと心が大切と思えます。技量向上ばかり優先ではなく皆が楽しく和と感謝の心を大切に唄って頂き、私も活動する考えです。最近では、幼稚園、小学校、中学校の学校関係への安来節の指導が増え、初心者の会員拡大に貢献できればと思っています。

私と安来節



絃 大師範 渡部孝夫

長き求道 「癒しの安来節」をもとめて

いつの頃でしたか、昭和二十年代後半半でした。演芸会や盆講堂で盛んな頃、小学校講堂で高山雅一さんと高山保子さんの万歳を見ました。「おまはながごしなはつた帯留めの…」出雲弁で唄った「ごんごり」そして雅一さんのゴリラの演技は逸芸でした。ね、お客はくぐくぐ引き込まれて会場は熱気あふな歓声でした。高山雅一さんは鼓の名人、後に高山保子さんは唄の名人です。

私には三味線を追い求めて三十余年、いったい何をどのようにしたか、と思うのか迷うことありました。こんな時、師匠と先輩から弾き方を見ていたことが今になって迷いのヒントになっていきます。しかも、今でも大きな問題に直面しており、果てしない三味線の深みを探索し、解決しなければならぬと感じています。

平成二年には「ふるさと創生」の関連で安来市より市内の全公民館で市民を対象に文化振興の為に安来節教室の要請があり、本部道場の重点行事として行う事になりました。それに伴い会員は急激に増え、現在では殆どの方が師範を取得され、皆さん活躍中です。今、心配しているのは後継者の減少、若年層の安来節保存会入会者が少ない事です。市内の小学校や中学校で安来節の授業もあり、入会までは今一歩です。安来市の中学校では教材として三味線も取り入れています。どうぞ今年度皆さんでこれからの安来節発展の為に考えてみて頂きたいと思っています。



絃 准名人 越野幸吉

私と安来節の思い出

戦後復興もない頃、世の中にやつと平和の兆しが見えはじめ、歌舞音曲が取り戻されるようになり、徐々には活気が取り戻されて来た昭和二十四年正月、父（安来節保存会 荒島支部長 絃 大師範）の勧めで集落の青年六人で唄と三味線を習う事になり、唄の先生は三村佐次郎先生（准名人）にお願ひしました。やがて荒島地区の文化祭で発表する事になり、毎晩特訓でした。三味線の練習は夜遅くや昼間は近所迷惑になる為、兄のアドバイスで薄暗い土蔵の中で練習した事もありました。発表会の結果は充分ではなかったのですが、安来節は初出演で珍しい事もあり、それによりだんだん練習仲間が増えていきまして、この年に初めて入会審査を受け、絃一級を取得しました。当時島根県一の広さの安来小学校大講堂でも緊張したのを憶えています。

昭和二十五年には国正寺（安来市久白町）で資格審査会が実施され、当時何もわからない者が貴重な経験をしました。支部は飯梨、広瀬、山佐、布部、荒島、意東などから殆どの方が自転車で来られたので、寺の広場は満杯になりました。吉村先生の練習の時は初代遠藤お直名人にご指導頂く為に自宅まで自転車で送迎するのが私の役目でした。練習は厳しく、私どもも無く張りのある高音の名調子で八畳二間続きの部屋は障子が破れそうでした。ふと気づくと家の外がざわめくので、障子を開けると門口の所に人垣が出来て、

私はこの頃、舞台上で演ずるっていいな、とおぼろげに思っていました。心に残る昔は、若い頃の三代目富田徳之助さん、二代目安達

順吉さんで二人が弾く三味線はよく似ていました。（昭和三十二年）三年頃のSP盤を聞いて唄は福島亀子さん、出雲小愛の助さん、大社捨子さん、なんべん唄でも飽きのこない唄です。三味線のこない唄にしてもこの方たちは、今頃舞台上で演じられていく技術的な表現は乏しいと思えます。何と云えな素朴で素直な表現は、当時のんびりとした世相が反映しているのかも知れませんが、聞いてびきり安心感といえますか、癒しのある唄でした。

昭和二十五年には国正寺（安来市久白町）で資格審査会が実施され、当時何もわからない者が貴重な経験をしました。支部は飯梨、広瀬、山佐、布部、荒島、意東などから殆どの方が自転車で来られたので、寺の広場は満杯になりました。吉村先生の練習の時は初代遠藤お直名人にご指導頂く為に自宅まで自転車で送迎するのが私の役目でした。練習は厳しく、私どもも無く張りのある高音の名調子で八畳二間続きの部屋は障子が破れそうでした。ふと気づくと家の外がざわめくので、障子を開けると門口の所に人垣が出来て、

やがて見物人の所望に添えてお直名人が唄われまして。それはもう集落の奥深くまで響き渡るようなすばらしい声でした。私が子供の頃、集落では昔から家庭内のお祝いや特に婚礼になると宴会が三日間も続いた事もありました。五本松節、安来節はもとより唄いやすい久白節（さんご節調）で三味の音色に乗せ安来拳で賑わったものです。昭和三十年、審査会場は市公会堂（現・日立厚生館）で審査は二次まであり、難関でしたが、絃師範の免状を拝命しました。その後、昭和三十五年から四十六年まで、遠方勤務となつた為に休会しましたが、四十七年に高野先生の勧めで再入会し、五十七年の島根国体では全国の選手を迎え、県内の准師範以上、二〇〇名が揃つて大演奏し、グラウンドの遥か向うの山々まで大音響で鳴り渡り、勇壮な郷土民謡安来節のすばらしさに深く感動しました。また夏季国体では皇太子様をお迎えし、ブルーサイドで選抜された婦人部五十名の皆さんが銭太鼓を披露されましたが、強風で大変だった事を思い出します。

日本新舞踊民踊芸能協会 結成二十周年記念企画

第18回新舞踊民踊大賞全国大会 第18回こども未来賞全国大会

平成22年 日時 2月27日(土)・28日(日) 開演 午前9時30分 会場 電力ホール (宮城県仙台市)

安来節保存会東京支部参加 27日 コンクールに銭太鼓で参加 28日 結成20周年記念ゲストで参加 安来節保存会 踊 大師範 棚橋 保

支部設立について



静岡支部長 濱崎 正人

平成二十一年三月七日に認可をいただき、発足しました静岡支部（本部ブロック）でございます。

静岡県と言えば日本一高い山で知られるあの美しい富士山、また日本人には欠かせないお茶の産地で有名な所です。その静岡に安来節を広めようと平成十五年から六年間の歳月をかけコツコツと取り組んで来ました。普及と指導はもとも静岡県下に民謡と銭太鼓の会を有していた私の妻、濱先未明の全面的な理解と協力のもと、浜松から御殿場までの区間ほとんど静岡県全域にまたがり活動を続けて参りました。その結果百三十名（現在は百五十名）の会員が集まり支部結成の運びと成りました。しかし会員の大多数はまだ無資格会員の為、二十二年度の審査を受審していただく為の稽古で日々精進を積み重ねていくところがございます。課題としては種目内容の充実を図る事です。踊りの志望者が非常に多く、次に銭太鼓、唄、絃、鼓の順になるのですが、唄、絃、鼓を育てる為、好きになつていただく環境作りをしていかなければなりません。そして内容のバランスを保つて行く事が安来節全般を知っていただき、好きになつていただく事につながると信じています。静岡支部は今ピカピカの一年生ですが、これから本当の意味で内容の充実を図り、会員普及活動はもちろんの事、資格審査並びに全国優勝大会等に積極的にチャレンジして行くように夢と希望を持ち続けて頑張つて行きます。全国の安来節保存会諸先生また会員の皆様方、今後共どうぞよろしくお願い致します。

ひびけ歌声世界の空へ

支部情報

尾上武夫さんの長寿(97)を祝う!



東京支部長 棚橋 保

平成二十一年十月十二日、東京都千代田区紀尾井町の赤坂プリンスホテルで尾上武夫（東京支部会員、踊師範）さん九十七歳の長寿を祝う会を行いました。

本部から、安来節保存会専務理事兼事務局長 成相二郎氏、家元四代目渡部お糸先生も遠方からかけつけていただいた。成相氏から「安来節保存会でも最高齢を聞かれると尾上さんの名前が出ます。そうした事から安来節保存会としても大変喜ばしい事だと思っております。」また家元からも「安来



節保存会に入会して四十五年になり、いわゆる昇格祝いには何十回となく出席してきておりますが、長寿を祝う会に呼ばれたのは初めてで、こんな喜ばしい事はありません。」とお二人からこもこも温かい祝辞をいただいた。また、近藤宏樹 安来節保存会会長より懇切な祝電もいただき、参加者一同感激ひとしおでした。

その後、一部で祝舞としてカツポレ、民謡、ハーモニカとつづき、竹田源一（踊師範）が極め付け相撲甚句に乗せて尾上さんの一生を唄い上げ、一気にお祝いの雰囲気盛り上がった。



二部では、十五名による銭太鼓「東京音頭、花笠音頭」を披露、安来節の唄と茨城県水戸市の尾上さんと同じ教室の仲間がどじょう揃い踊りで締めくくった後、家元より祝言を折り込んだ歌詞の安来節を唄っていただき、榎 東京支部事務局長の手打三本締めで閉会となった。尾上さんの白寿(99)までも頑張ってもらいたいという思いを抱きながらホテルを後にした。

湖陵支部設立三十周年を迎えて



初代湖陵支部長 石 飛 孝

昭和五十四年頃、私が所属する神門支部は会員数四百名を超える大支部となっていました。その頃、故原 功先生など神門支部幹部の方々から新支部結成の話がありました。同じ頃、故 小川幸雄先生

と私の生徒は百二十名位いました。私達の門下生で新支部を、という話でした。小川先生と私、主だった生徒さんで話し合いを重ねた結果、結成に向けて頑張ろうとの結論になりました。「設立にこぎつける事が出来るだろうか？」との不安はありましたが、神門支部の皆さん、門下生の皆さんの多大な応援によって、新支部誕生となりました。

昭和五十四年十二月、安来節保存会本部役員、審査員、神門支部幹部の方々、そして新支部に加入された会員多数の出席を得て、設立発会式が盛大に行われました。設立に関わった皆さんの喜び感激と私の生徒は百二十名位いました。私達の門下生で新支部を、という話でした。小川先生と私、主だった生徒さんで話し合いを重ねた結果、結成に向けて頑張ろうとの結論になりました。「設立にこぎつける事が出来るだろうか？」との不安はありましたが、神門支部の皆さん、門下生の皆さんの多大な応援によって、新支部誕生となりました。

安来節保存会 関東支部

設立認可13年を迎えて、今後は財団法人日本民謡協会の応援を仰ぎ、会員各位が格式が持てる会として躍進いたします。

支部長 若岑 礼

〒169-0074
東京都新宿区北新宿2丁目3-21-402
TEL 03-3369-4069



主催/財団法人日本民謡協会 『民舞の祭典』

メルパルク大ホール
平成21年9月27日

【出演】安来節銭太鼓
安来節振興会会員

安来節振興会

設立20周年を迎えて、今後は安来節保存会に入会していただくための唄、絃を中心とした講習会を行ない、本場の先生方をお招きして伝統ある安来節の技術向上の伸展を目指していく会です。

参加者大歓迎!!

会長 若岑 緑峰

〒111-0032 東京都台東区
浅草1丁目18-3 遠藤ビル3F
安来節振興会事務局
TEL・FAX 03-3847-0215

会員の声コーナー

安来節解説書

「たましいの唄 安来節」発刊



〈解説〉
民謡研究指導家
丸瀬 一 宇
(本部道場)

島国である日本は古くから独自の文化と言語を育んで来ました。民謡の歌詞はその大半が七五語りのリズムで、しかも言葉を選んで簡潔に作られている事に気が付きます。そしてその歌詞には表の意味の他に別の意味に解釈できる裏の意味が隠されている場合が多く、その表現の巧みさには感心させられるばかりです。

現在唄い継がれている唄も、言葉が死語になったり唄い込まれていく事象が多いため、理解が困難なものが多くなり、歌詞の意味を考える事なく唄い方だけに頼って唄われる事が多くなりました。しかし、唄とは本来歌詞に込められている感動を表現するもので、その唄の持つ意味をしっかりと理解した上で唄わなければ聞き手に感動を与える事が出来ません。そこで、選定歌詞の中で難解と思えるもの、間違っって解釈され易いと思えるもの一〇六曲に私なりの解説を加えて見ました。あわせて唄、伴奏、どじょう揃い、銭太鼓にも少し触れています。以前よりこの様な解説書の必要性を感じていた所、本部道場の研修会で希望も有った事から、私の生徒との作業分担により膨大な作業の上ようやく完

成に至りました。安来節解説書「たましいの唄 安来節」を是非安来節愛好家の皆様方に一読頂きたくご案内致します。尚、この取扱いは保存会事務局、または丸瀬一宇、丸瀬千登世（TEL 〇九〇一八三六一一五八七六）で行っています。（価格は税込で千円）



安来節との

すてきな出会い



山口支部
淵野 倭子

働きに働いてきた私は十数年前に定年退職となり、家で朝から晩までボーとしていたことに耐えられなくなって安来節の三味線を習うことにしました。しばらくして唄も習った方が三味線の理解が早いということで唄も始めました。生来の不器用で、先生に人一倍苦勞を掛けましたが、それでも少しずつ教室のみなさんについて行けるようになりました。そうなる嬉しくなって、家での稽古にも熱が入ります。また、もっと上達をしたかったら審査会だけでなく、優勝大会や西部地区大

会のようなコンクールにも出場しないとの先生のアドバイスを忠実に実行しています。そのお陰で多くの方々と出会いがあり、お知り合いとなる事が出来ましたが、みなさんは私の大切な大切な人生の財産です。これまで安来市方面にはまったく縁の無かった私が、師範昇格審査会や代議員会、そして全国優勝大会等と今では頻繁に出雲路を走行しています。このように、現在は安来節での外出がたいへん多くなっておりませんが、主人は苦情の一つも言わず、いつも快く見送ってくれます。楽しく安来節を続ける事が出来るのも主人の理解とやさしさのお陰と心から感謝しております。最後に、何と言っても山口支部があった私の安来節です。元気に動ける限り山口支部への恩返しの一環として運営に携わっていきたいと思っています。未熟者ですが、これからもよろしくお願いたします。

縁は異なるもの 味なもの

— 四十五年目の再会 —



東京支部
浅田 節子

私は踊りを始めて二年になる。この間、気になる事があった。大学のサークルの先輩の名前を支部の名簿で見つけ、続いて支部の年報「安来節」で再び見つけ、もしや先輩の渡辺 隆さんではないかとの疑念が起きた。早速大学時代のサークル名簿を元に電話をしてみると、なんと

図星で真正正銘渡辺 隆さんご本人で私の疑念がやっと晴れたわけです。あれから四十五年の月日が経過しており、奇遇そのもので、共通の友人（夫）は、私の話を聞いて、しばし呆れた後、瞑想に耽っていた。九月二日、私は友人と共に渡辺さん夫妻とお会いする事が出来、この再会に喜びと感謝の気持ちで胸が一杯になった。渡辺さんは、長い海外生活の



なかで何か日本的なものを身につけておけば良かったと痛感し、帰国後にどじょう揃い踊りを習いだしたと言っておられました。私も定年退職後に踊りで東京支部に入会、現在は踊りの他に絃にも取り組んでいます。渡辺さんは、現在踊・准師範で師範を目指して頑張りが、郷里の福島市に道場を開きたいと、構想と具体的な準備を検討しているとの事で是非実現していただきたいと思っています。私も娘の嫁ぎ先のご両親の米寿（八十八歳）のお祝いに踊りを踊ってみようかと心密かに思いつつ、稽古に励んでいます。

安来節・どじょう
すくい踊りに感謝感謝
合掌

私と安来節



米子支部
坂口 美弥子

昭和五十四年に友人の紹介で安来節保存会米子支部に入会させて頂き、初めて審査を受けました。それまで箏曲を学んでおりましたので三味線は多少しておりましたが、安来節のテンポ・間がとつても難しく苦勞しました。今から考えて見ますと、テンポ・間が安来節独特であり、難しいところでしょう。師匠の口癖で「タメの無い三味線はダメ」とよく言われたものです。安来節を始めて三十年になりますけど

一度も辞めたいと思つた事がないのが自分でも不思議に思います。平成十年に唄、十四年に絃・大師範へと昇格させて頂きました。よく町内の方から「何年も安来節ばかり飽きませんとしているんですね」と言われたものです。それだけ歴史の深い安来節の世界にいる人達しか味わう事の出来ない魅力を数多くの方々に広め、支部拡大を目標に微力ながらこれからも体力の続く限り頑張っていきたいと思っています。芸は身を助けると申しますが、私の場合は芸は病を守り、病を支えて安来節と一心同体です。これからは諸先生方をはじめ数多くの方々とのお会いを大切にしながら一層精進したいと思えます。今後一層の御指導、御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

事務局からのお知らせ

安来節のしおり（平成21年度版）に誤りがございました。追加してお詫言いたします。

【追加】

湖陵支部
P133 ◆師 範
唄 小田美代子

安来節保存会会員特典！

次の施設で安来節保存会会員証をご提示されますと次の特典が受けられます。

- 足立美術館入館料 2,200円が2,000円
- 安来節演芸館 観賞料半額